

# 国産ムク材を使いきれ るのは工務店だけ!!

## 青木氏、山辺氏ら大いに語る

国産材製材  
協会シン



国産材製材協会は4月25日、「木造住宅の建築をめぐる情勢変化と木材産業」をテーマに講演会・シンポジウムを開催。各パネラーの報告のほか総合討論も行われ、問題点が浮き彫りにされた。

前、地盤調査も当たり前。性能表示の仕組みを思い出すべき。そうでないと住宅は200年も持たない。国産ムク材を本当に使いきれれる仕組みにあるのは、年に数棟だけを手がける工務店しかない。その国産ムク材は、強度にバラツキがあつて当たり前。使う人によって太さがまちまちになるのも当たり前」と強調。さらに「私たちは、スクラップアンドビルドから脱却しなければいけない。今後は建材メーカーに対しても、取り扱う

工法に対しても、仕入れる木材に対しても、200年持つということを考えながら家づくりを臨むべき」と提言した。

伏図を画けるように最低限の努力を

構造設計の第一人者である山辺構造設計事務所社長の山辺豊彦氏は総合討論のなかで、「伏図の作成について、木造の建物では、各階ごとにそれぞれまとめられていけばいいという発想で画いている人が圧倒的に多い。そのため、セットバックした柱の下に、下階の柱がないなどということがある。おそらくCADの担当者が、それぞれの階を別々に担当するため、これについては、意匠設

### 工務店はそれほど「JAS材にこだわらない」?

来場者の中で意見を求められた秋田県立大学飯島泰男教授は、工務店を対象にした木材利用のアンケートを行っており、一般の中小工務店(年間完工棟数50棟未満の規模)に地域産材の利用について聞き取り調査をしたところ「積極的に利用したい」51%、「条件付き(乾燥のレベル等)で利用したい」43%、「全く利用しない」6%という結果を得ている(サンプル数約150社現在データを解析中)。

これに関連して、「JAS材についてどう思うか」も質問している。「JAS表示は必要か」という質問に対して、必要・不要の回答は半々。「品質明示は必要」とする業者はほとんどであったが、「それがJASでなくでもいい」という意見もあった。さらに「各県の認証材制度でも良いが、信頼関係のある製材業者の保証でもいい」とも。そして、プレカット材を利用する工務店ほど表示がほしいとしている。

しかし「JAS材には含水率は明示して欲しい(現在も表示している)」という意見は全体の60%、生産国明示は50%ほどに上る。

JAS材には樹種名を表示することになっているが、規模が大きな工務店になるほど、またプレカットの使用率が高い工務店になるほど、「樹種を表示して欲しい要求」(比較的規模の大きな工務店では3分の2、小さい工務店は40%以下)が強い。それは、各社の担当者(営業マンが多い)レベルでは「触ただけで樹種が分からない」からと。さらに、人口乾燥が天然乾燥かの区別の必要性については全体の30%ぐらい。特に、高温乾燥に対する拒否反応を示す業者もあり「忙しいときだけプレカットを使う業者」ほど、そういう拒否傾向が強い。

また、曲げヤング係数(E表示)が必要というのは全体の20%程度であった。

工務店でも、規模の大きい業者と小さい業者によって反応が違うが「JAS材についてはもちろん性能を保証してほしいが、JAS材にこだわるつもりはない。それは高いから」という意見も聞かれた。

そして「JAS材は意外にも乾燥にバラツキ(過乾燥、内部割れ等)があるので、もっと良い品質の認証を設けるべき」という意見を持つ工務店もあったという。

計者、プレカット工場のオペレーターなどに、構造計算における最低限の知識を教えるしか解決の道はない」と指摘。

青木氏も「木造建築士格を持っていても木造建築士を受験してみると良が開かれているが、今年はその倍以上が受講。だから、一級建築士の資

格を持っていても木造建築士を受験してみると良が開かれているが、今年はその倍以上が受講。だから、一級建築士の資

ニーズにあった製品の供給が肝要

JAS材やヤング係数表示に関して、(株)全木連技術指導役の久田卓興氏は「JASの各等級ではヤング係数表示は義務付けされていないが、国交省の告示においてJAS基準にヤング係数が表示されているので、設計の段階ではその数値を用いることができるのではないか」とした。

そして、(株)西村材木店社長の西村仁雄氏は、「木材利用の着実な推進のためには、ニーズにマッチした商品を提供するほかにない」とし、製材システム、乾燥などの技術革新を進め、ニーズにあったものを供給できる体制、川上から川下までが連携した技術の構築が大事であるとして討論全体を総括した。